

GSSBC マニュアル

2013/06/27 1.1



CAS電子出版
<cas-ub.com>

目 次

第1章 概要	1
1-1 GSSBC とは	1
1-2 新たに追加される変換元と変換先のファイル形式	2
第2章 準備	3
2-1 必要なソフト	3
2-2 環境変数の設定	4
第3章 変換の流れ	7
3-1 PDF 出力	7
3-2 イメージ出力	8
3-3 Flash(SWF), SVG, INX, and XPS 出力	9
第4章 実行	11
4-1 プログラムの起動	11
4-2 環境変数	11
4-3 実行例	12
第5章 コマンドラインオプション	16
第6章 技術資料	18
6-1 スペースを含むファイル名について	18
6-2 ソースパスワードとターゲットパスワードの違い	19
6-3 出力ファイル名の決定方法	19
6-4 Server Based Converter のオプションファイル	20
6-5 GhostScript のオプションファイル	21
改訂履歴	26

圖一覽	28
索引	30

第1章 概要

1-1 GSSBC とは

GSSBC は、Server Based Converter, GhostScript を使って、次の変換を可能にするソフトです。

- 1) 現在の Server Based Converter の Linux 版は、各種イメージ形式への変換をサポートしていませんが、GSSBC を使うと、Linux でも各種イメージ形式への変換ができます。
- 2) MS Office から PDF への変換など、Server Based Converter で可能な変換は、GSSBC でも可能です。

以上のように、GSSBC は、Server Based Converter の機能を拡張し、利用範囲を広げるソフトです。

以下の説明では、

Server Based Converter を SBC と略します。

GhostScript を GS と略します。



図 1.1 GSSBC components

1-2 新たに追加される変換元と変換先のファイル形式

GSSBC が変換できる変換元、変換先のファイル形式は、以下の通りです。

これらは、すでに SBC がサポートしているものに追加されるものです。

新たな変換元ファイル形式

特になし

新たな変換先ファイル形式

GS がサポートしている出力ファイル形式

第2章 準備

2-1 必要なソフト

GSSBC を実行するには、以下のソフトがインストールされていて、正常に動作することが必要です。

Server Based Converter

Server Based Converter V4.0 以上。日本語を正しく処理するためには、あなたのフォント環境に合わせて、font-config.xml でフォントを適切に設定してください。フォントの設定については、Server Based Converter のマニュアルを参照してください。

Java

JDK 1.7.0_05 以上

GhostScript

GhostScript 9.06 以上。日本語 Windows で、日本語を正しく処理するためには、日本語 Windows 用 GPL GhostScript を使ってください。その他のプラットフォーム用 GPL GhostScript で、日本語を正しく処理するためには、あなたのフォント環境に合わせて、フォントを適切に設定してください。フォントの設定については、GhostScript のマニュアルを参照してください。

ダウンロード場所

Java

<http://www.oracle.com/technetwork/java/javase/downloads/index.html>

日本語 Windows 用 GPL GhostScript

<http://www.khotta.org/ghost/index.html>

その他のプラットフォーム用 GPL GhostScript

<http://www.ghostscript.com/download/gsdnld.html>

我々のテスト環境

Ssrver Based Converter V4.0MR2 日本語版
Window 7 Professional 32bit
JDK 1.7.0_05
GhostScript 9.06 日本語版

2-2 環境変数の設定

GSSBCの実行前に、以下の環境変数を設定してください。
パスが空白を含む場合は、ダブルクォート(”)で括ってください。

SBCの環境変数

SBCのJavaインターフェースが実行できるように、SBCのマニュアルにしたがって、環境変数を設定してください。

JAVA_HOME

JAVA_HOMEには、Javaがインストールされているフォルダ/ディレクトリを設定してください。

Windows

Javaが、

```
c:¥jdk1.7.0
```

にインストールされているなら、

```
set JAVA_HOME=c:¥jdk1.7.0
```

Linux

Javaが、

```
/usr/local/java/jdk1.7.0
```

にインストールされているなら、

```
export JAVA_HOME=/usr/local/java/jdk1.7.0
```

GSSBC_HOME

GSSBC_HOME には、GSSBC がインストールされているフォルダ/ディレクトリを設定してください。

Windows

GSSBC が、

```
c:%gsbc
```

にインストールされているなら、

```
set GSSBC_HOME=c:%gsbc
```

Linux

GSSBC が、

```
~/gssbc
```

にインストールされているなら、

```
export GSSBC_HOME=~/gssbc
```

GS_PROG_PATH

GS_PROG_PATH には、GS の実行プログラムのパスを設定してください。

GS によるイメージ出力をしないのなら、このステップは省略できます。

Windows

GS の実行プログラムが、

```
C:%Program Files%gs%gs9.06%bin%gswin32c.exe
```

なら、

```
set GS_PROG_PATH="C:%Program Files%gs%gs9.06%bin%gswin32c.exe"
```

Linux

GSの実行プログラムが、

```
/opt/ghostscript-9.06-linux_x86_64/gs-906-linux_x86_64
```

なら、

```
export GS_PROG_PATH=/opt/ghostscript-9.06-linux_x86_64/  
gs-906-linux_x86_64
```

第3章 変換の流れ

GSSBCは、次のように、SBCとGSを使って変換を実行します。



図 3.1 GSSBC のコンポーネント

3-1 PDF 出力

(1-1) 入力がMS Office などSBCがサポートしているファイルの場合

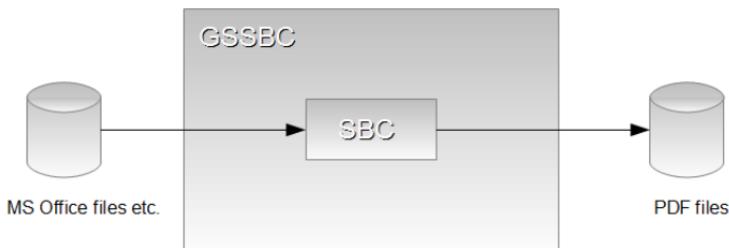


図 3.2 MS Office ファイルなどから PDF へ

3-2 イメージ出力

イメージ出力に、SBCを使うか、GSを使うかは、コマンドラインオプションの `-p` に指定された値で決まります。@で始まるSBCのプリンタ名なら、SBCを使います。それ以外は、GSのデバイス名とみなしてGSを使います。

Linuxでは、SBCによるイメージ出力はできません。GSによるイメージ出力のみです。Windowsでは、SBCによるイメージ出力とGSによるイメージ出力の両方が可能です。

(2-1) 入力がPDFの場合

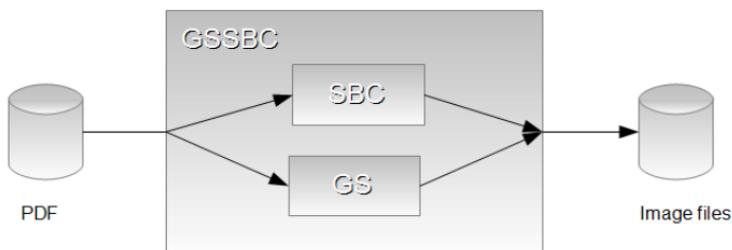


図 3.3 PDF からイメージへ

(2-2) 入力がMS Office などSBCがサポートしているファイルの場合

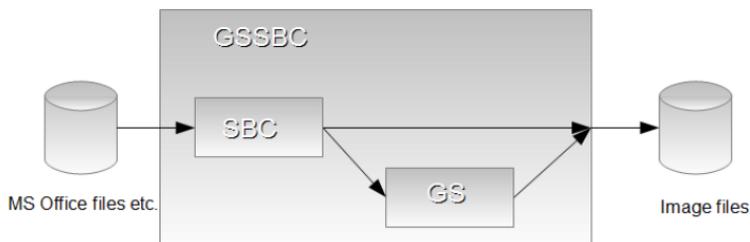


図 3.4 MS Office ファイルなどからイメージへ

3-3 Flash(SWF), SVG, INX, and XPS 出力

(3-1) 入力がPDFの場合

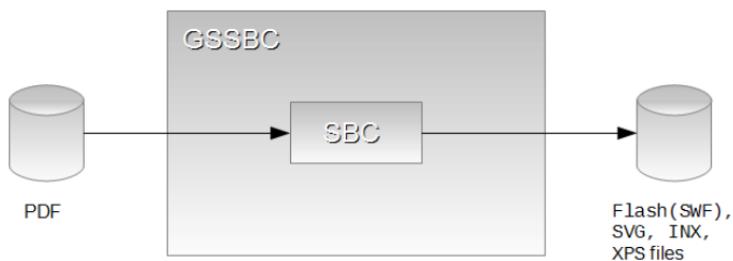


図 3.5 PDF から Flash(SWF), SVG, INX, XPS へ

(3-2) 入力がMS Office などSBCがサポートしているファイルの場合

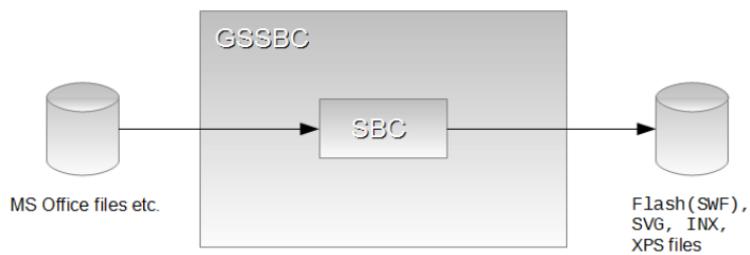


図 3.6 MS Office ファイルなどから Flash(SWF), SVG, INX, XPS へ

第4章 実 行

4-1 プログラムの起動

GSSBCの実行には、
%GSSBC_HOME%\bin\gssbc.bat (Windowsの場合)
または、
\$GSSBC_HOME/bin/gssbc.sh (Linuxの場合)
を使います。

4-2 環境変数

Linuxでは、\$GSSBC_HOME/bin/*.shには、実行可能パーミッションをつけてください。

```
cd $GSSBC_HOME/bin  
chmod +x *.sh
```

必要に応じて、
%GSSBC_HOME%\bin (Windowsの場合)
または、
\$GSSBC_HOME/bin (Linuxの場合)
を環境変数PATHに追加してください。
次のコマンドを実行して、GSSBCのヘルプが出るか確認してください。

Windowsの場合

```
%GSSBC_HOME%\bin\gssbc.bat -?
```

Linuxの場合

```
$GSSBC_HOME/bin/gssbc.sh -?
```

4-3 実行例

以下の例にあるコマンドラインオプションの説明は、「コマンドラインオプション」(p. 16) を読んでください。

出力ファイル名が決まるルールの説明は、「出力ファイル名の決定方法」(p. 19) を読んでください。

1つのファイルを変換

```
gssbc test.doc
```

これは、SBC を使って、MS Office ファイル 'test.doc' を 'test.odt.pdf' に変換します。

1つのファイルを変換 (詳細表示モード、MS Office ファイル)

```
gssbc -v test.doc
```

これは、実行の詳細を表示し、SBC を使って、MS Office ファイル 'test.doc' を 'test.doc.pdf' に変換します。

1つのファイルを変換 (出力ファイル名を指定)

```
gssbc -o my-test.pdf test.doc
```

これは、SBC を使って、MS Office ファイル 'test.doc' を 'my-test.pdf' に変換します。

1つのファイルを変換 (出力形式を指定。GS によるイメージ出力)

GS によるイメージ出力は、SBC Linux 版でも Windows 版でも動きます。

GS によるイメージ出力は、-p で GS の出力デバイス名を指定します。

```
gssbc -p jpeg test.doc
```

これは、MS Office ファイル 'test.doc' を、GS を使って、'test.doc.jpeg' に変換します。

1つのファイルを変換(出力形式を指定。出力ファイル名を指定。GSによるイメージ出力、MS Office ファイル)

GSによるイメージ出力は、SBC Linux版でもWindows版でも動きます。

GSによるイメージ出力は、-p でGSの出力デバイス名を指定します。

```
gssbc -p png16m -o my-test.png test.doc
```

これは、MS Office ファイル 'test.doc' を、GS を使って、'my-test.png' に変換します。

複数のファイルを変換

```
gssbc test.doc test1.doc
```

これは、SBC を使って、MS Office ファイル 'test.doc' を 'test.doc.pdf'、'test1.doc' を 'test1.doc.pdf' に変換します。

複数のファイルを変換(出力ディレクトリ指定、GSによるイメージ出力)

GSによるイメージ出力は、SBC Linux版でもWindows版でも動きます。

GSによるイメージ出力は、-p でGSの出力デバイス名を指定します。

Windows

```
gssbc -d %temp -p jpeg test*.pdf
```

PDF ファイル 'test.pdf'、'test1.pdf' がある場合、これは、%temp の下に、GS を使って、test.pdf.jpeg、test1.pdf.jpeg を作ります。

Linux

```
gssbc -d /temp -p jpeg test*.pdf
```

PDF ファイル 'test.pdf', 'test1.pdf' がある場合、これは、/temp の下に、GS を使って、test.pdf.jpeg、test1.pdf.jpeg を作ります。

複数のファイルを変換 (出力ディレクトリ指定、SBC によるイメージ出力)

SBC によるイメージ出力は、SBC Windows 版では動きますが、Linux 版では動きません。

SBC によるイメージ出力は、-p で、@で始まる SBC のプリンタ名を指定します。

Windows

```
gssbc -d %temp -p @JPEG test*.pdf
```

PDF ファイル 'test.pdf', 'test1.pdf' がある場合、これは、%temp の下に、SBC を使って、test.pdf.jpeg、test1.pdf.jpeg を作ります。

Linux

```
gssbc -d /temp -p @JPEG test*.pdf
```

PDF ファイル 'test.pdf', 'test1.pdf' がある場合、これは、/temp の下に、SBC を使って、test.pdf.jpeg、test1.pdf.jpeg を作ります。

複数のファイルを変換 (GS オプションファイル指定。GS によるイメージ出力)

GS によるイメージ出力は、SBC Linux 版でも Windows 版でも動きます。

GS によるイメージ出力は、-p で GS の出力デバイス名を指定します。

```
gssbc -gsopt my-gs.opt -p jpeg test*.doc
```

MS Office ファイル 'test.doc', 'test1.doc' がある場合、GS オプションファイルと GS を使って、'test.doc.jpeg',

'test1.doc.jpeg'を作ります。

第5章 コマンドラインオプション

GSSBCのコマンドラインオプション

```
gssbc [-?][-d output_dir][-gsopt gs_option_file][-o  
output_file][-p output_format][-password password][-sbcopt  
sbc_option_file][-v][-x level] input_files
```

-?

ヘルプメッセージを出します。

-d

出力ディレクトリを指定します。デフォルトは、各入力ファイルと同じディレクトリになります。これは、複数の入力ファイルのときのみ、有効です。入力ファイルが1つだけのときは、無視されます。

-gsopt

GSのオプションファイルを指定します。

-o

出力ファイルを指定します。これは、入力ファイルが1つだけのときに有効です。複数ファイルのときは、無視されます。

-p

出力形式を指定します。デフォルトは@PDFです。GSによってイメージファイルを作りたいときは、GSの出力デバイス名を指定します。例 jpeg, pngl6m。あるいは、SBCによってイメージファイルを作りたいときは、SBCのプリンタ名を指定します。例 @JPEG, @PNG。SBCのプリンタ名@JPEG, @PNGなどは、GSSBCがWindowsで動いているときに有効です。

Ghostscriptのデバイス名について詳しい情報は、以下を参照してください。

<http://www.gnu.org/software/ghostscript/devices.html>

SBCのプリンタ名について詳しい情報は、以下を参照してください

い。

日本語：<http://www.antenna.co.jp/sbc/manual/sbc-xslcmd.html>

英語：<http://rainbowpdf.com/serverdoc/sbc-xslcmd.html>

-password

ソースパスワード(変換元ファイルのパスワード)を指定します。

-sbcopt

SBCのオプションファイルを指定します。

-v

詳細表示モードにします。

-version

バージョン情報を表示します。

-x

SBCのエラー終了レベルを指定します。デフォルトは、2です。

input_files

入力ファイルです。

詳細表示メッセージ、エラーメッセージなどは、標準エラー出力に出力されます。

これらのメッセージを、ファイルにリダイレクトするには、gssbc コマンドを次のように使います。

例1 標準エラー出力のみリダイレクト

```
gssbc input_file 2>error.txt
```

例2 標準出力、標準エラー出力の両方をリダイレクト

```
gssbc input_file >error.txt 2>&1
```

第6章 技術資料

6-1 スペースを含むファイル名について

スペースを含むファイル名は、トラブルの元です。スペースを含むファイル名は、使わないほうが賢明です。

binディレクトリの下でgssbc.shは、スペースを含むファイル名を処理できません。スペースを含むファイル名を処理するためには、あなたが、シェルスクリプトを書く必要があります。

サンプルとして、binディレクトリの下に、space-gssbc.shがあります。必要に応じて、これを変更してください。

最後の方法として、シェルスクリプトを使わずに、Javaを直接起動する方法があります。

例

```
export GSSBC_HOME=~/.gsoosbc-top/gssbc
export GS_PROG_PATH=/usr/bin/gss
export SBC_HOME=/usr/ServerBasedConverter
export SBC_LIC_PATH=$SBC_HOME/etc
export SBC_DMC_TBLPATH=$SBC_HOME/sdata/base2
export AHFS10_64_FONT_CONFIGFILE=$SBC_HOME/etc/font-config.xml
export PATH=$SBC_HOME/bin:$PATH
export LD_LIBRARY_PATH=$SBC_HOME/lib:$LD_LIBRARY_PATH
export CLASSPATH=$SBC_HOME/lib/DfvJavaCtl.jar:$CLASSPATH
export JRE_HOME=${JAVA_HOME}/jre
export MY_JAR=${GSSBC_HOME}/lib/gssbc-1.0.4.jar
```

これらの環境変数を設定して、Javaを直接実行。

```

${JRE_HOME}/bin/java -cp ${CLASSPATH}:${MY_JAR} -Dgspath=${
GS_PROG_PATH} jp.co.antenna.gssbc.GsSbc -v "~/test-data/
dir with space/test.doc"

```

6-2 ソースパスワードとターゲットパスワードの違い

暗号化された入力ファイルに設定されているパスワードを、ソースパスワードと呼びます。

出力するPDFに設定するパスワードを、ターゲットパスワードと呼びます。

ソースパスワードは、`-password` オプションで指定します。

SBCでPDFを出力する場合、ターゲットパスワードは、`-sbcopt` オプションで指定します。

6-3 出力ファイル名の決定方法

出力ファイル名は、以下のように決まります。

(1) 入力ファイルが1つだけの場合

(1-1) `-o` で出力ファイルが指定されている

出力ファイル名は、

`-o` で指定されたファイル

(1-2) `-o` がない

(1-2-1) `-d` で出力ディレクトリが指定されている

出力ファイル名は、

`-d` で指定された出力ディレクトリ + 入力ファイル名
+ 出力形式の拡張子

(1-2-2) `-d` がない

出力ファイル名は、

入力ファイル名 + 出力形式の拡張子

(2) 入力ファイルが複数の場合

`-o` は、無視される。

(2-1) `-d` で出力ディレクトリが指定されている

出力ファイル名は、

-dで指定された出力ディレクトリ + 各入力ファイル名 + 出力形式の拡張子

(2-2) -dがない

出力ファイル名は、

各入力ファイル名 + 出力形式の拡張子

入力ファイルのディレクトリが違えば、出力ファイルも違うディレクトリになる。

6-4 Server Based Converter のオプションファイル

コマンドラインオプションの-sbcopt は、SBC に対するオプションを書いたファイルを指定します。

-sbcopt は、SBC で、PDF、イメージ、Flash(SWF)、SVG、INX、XPS を出力するときに使います。

SBC の Java インターフェースのオブジェクト `jp.co.antenna.DfvObj` に対して、API を呼び出すことで、オプションを指定します。

`jp.co.antenna.DfvObj` の API については、以下を参照してください。

英語版 API 仕様

<http://rainbowpdf.com/serverdoc/javadoc/index.html>

日本語版 API 仕様

<http://www.antenna.co.jp/sbc/manual/V4.0/javadoc/index.html>

ファイルの形式

オプションファイルは、UTF-8 で書いてください。

英語だけなら ASCII で書くことが可能です。

行頭に#があるとコメント行です。

各行に API 名とパラメータを、空白かタブで区切って並べます。

パラメータの形式は、次の通り。

10 進数は、'0' から '9' の数字の列。例 10。

文字列は、" でくる。例 "MyString"。

ブール値は、true か false。

API の例

<code>setStartPage</code>	<code>10</code>
<code>setWatermarkText</code>	<code>"My Test Document"</code>
<code>setOmitBlankPages</code>	<code>true</code>

サンプルファイルは、bin/sbcopt-sample.opt です。

注意

API の指定が、DfvObj の API 仕様と合っていないと結果は保証されません。

API が呼ばれていることを表示するには、コマンドラインオプション `-v` が必要です。

`setPdf` で始まる API は、OpenOffice/LibreOffice 以外のファイルを、SBC を使って PDF に変換するとき有効です。

DfvObj の API のうち、以下は、無効です。

`excute`, `releaseObjectEx`, `render`, `getXXX`

`set` で始まる XXX のうち、以下は、無効です。

`setDocumentURI`, `setExitLevel`, `setMessageListener`

`setOutputFilePath`, `setFormatPageListener`, `setPrinterName`

設 定 例

例 1

1 ページのみ出力。濃い透かし「Test」を入れる。

<code>setEndPage</code>	<code>1</code>
<code>setWatermarkText</code>	<code>"Test"</code>
<code>setWatermarkOpacity</code>	<code>"100%"</code>

6-5 GhostScript のオプションファイル

コマンドラインオプションの `-gsopt` は、GS に対するオプションを書いたファイルを指定します。

`-gsopt` は、GS で、イメージを出力するとき使います。「変換の流れ」の「イメージ出力」(p. 8) を参照してください。

SBCで、イメージを出力するときは、`-gsopt`ではなく、`-sbcopt`を使います。

GhostScriptの使い方、オプションについては、以下を参照してください。

GNU GhostScript

<http://www.gnu.org/software/ghostscript/>

How to use Ghostscript

<http://www.ghostscript.com/doc/current/Use.htm>

注意

GSの出力イメージフォーマットは、このファイルではなく、GSSBCのコマンドラインの`-p`オプションの引数で指定します。

使用できる出力イメージフォーマットは、GSの出力デバイス名です。

例1: JPEG出力

`-p jpeg`

例2: PNG出力

`-p png16m`

出力デバイス名など、GSの出力デバイスについては、以下を参照してください。

Details of Ghostscript output devices

<http://www.ghostscript.com/doc/current/Devices.htm>

Ghostscript Devices

<http://www.gnu.org/software/ghostscript/devices.html>

ファイルの形式

オプションファイルは、UTF-8で書いてください。

英語だけならASCIIで書くことが可能です。

行頭に#があるとコメント行です。

`GS_FILE_NUMBERING_FORMAT`で始まる行は、出力ファイル名の番号付けの書式を指定します。

%以降の書式指定の詳細は、

http://www.ghostscript.com/doc/current/Use.htm#One_page_per_file

を参照してください。

GS_FILE_NUMBERING_FORMAT 行は、GS_FILE_NUMBERING_FORMAT とパラメータが、空白かタブで区切られています。

GSSBC は、パラメータを、出力ファイル名のファイル拡張子の前に挿入して、GS の出力ファイル名にします。

例:

```
GS_FILE_NUMBERING_FORMAT -%03d
```

入力ファイル名 foo.pdf、出力ファイル名が foo.jpeg のとき、“-%03d” を指定すると、GS に指定する出力ファイル名は、foo-%03d.jpeg になります。

これは、最終的に、foo-001.jpeg、foo-002.jpeg などとなります。

GS_FILE_NUMBERING_FORMAT 以外の行は、GS のオプションになります。

GSSBC は、複数の行を、空白で連結して、GS のオプションを作ります。

オプションの挙動は、GS の実装に依存します。

サンプルファイルは、bin/gsopt-sample.opt です。

注意

以下のオプションは、使わないでください。これらは、GSSBC が設定します。

```
-dSAFER
-dBATCH
-dNOPAUSE
-o
-sDEVICE
-sOutputFile
```

設 定 例

例 1

```
# 静かなモード
-q
# サムネイル用に、最初のページだけ出力
-dLastPage=1
# 32ピクセル * 32ピクセルのイメージ
-g32
```

例 2

```
# 静かなモード
-q
# ファイル名のナンバリング形式
GS_FILE_NUMBERING_FORMAT -%03d
```

例 3

```
# 静かなモード
-q
# ファイル名のナンバリング形式
GS_FILE_NUMBERING_FORMAT -%03d
# 640ピクセル * 480ピクセルのイメージ
-g640x480
```

例 4

```
# 静かなモード
-q
# ファイル名のナンバリング形式
GS_FILE_NUMBERING_FORMAT -%03d
# 300dpi
-r300
```

```
# テキストとグラフィックスのアルファビットを設定  
-dTextAlphaBits=4  
-dGraphicsAlphaBits=4
```

改訂履歴

2013年02月26日

1.0版 GSSBC 1.0用の初版。

2013年06月27日

1.1版 構成を大幅に変更。スペースを含むファイル名について、記述を追加。

図 一 覧

第1章 概要

図1.1 GSSBC components (p. 1)

第3章 変換の流れ

図3.1 GSSBC のコンポーネント (p. 7)

図3.2 MS Office ファイルなどからPDFへ (p. 7)

図3.3 PDF からイメージへ (p. 8)

図3.4 MS Office ファイルなどからイメージへ (p. 9)

図3.5 PDF からFlash(SWF), SVG, INX, XPSへ (p. 9)

図3.6 MS Office ファイルなどからFlash(SWF), SVG, INX, XPSへ (p. 10)

索引

アルファベット

- Flash(SWF) 出力 9
 - Server Based Converter 20
 - GhostScript 1, 3
 - オプションファイル 16, 21
 - 実行例 12, 13, 14
 - 出力デバイス名 16
 - GS 1
 - GSSBC 1
 - 概要 1
 - コマンドラインオプション 16
 - 実行 11
 - 実行例 12
 - 準備 3
 - 必要なソフト 3
 - 変換の流れ 7
 - GSSBC_HOME
 - 環境変数 5
 - GS_PROG_PATH
 - 環境変数 5
 - INX 出力 9
 - Server Based Converter 20
 - Java 3
 - JAVA_HOME
 - 環境変数 4
 - MS Office 1
 - 実行例 12, 13
 - PATH
 - 環境変数 11
 - PDF 1
 - PDF 出力 7
 - Server Based Converter 20
 - 実行例 12, 13
 - SBC 1
 - Server Based Converter 1, 3
 - Flash(SWF) 出力 20
 - INX 出力 20
 - PDF 出力 20
 - SVG 出力 20
 - XPS 出力 20
 - イメージ出力 20
 - オプションファイル 17, 20
 - 実行例 12, 13, 14
 - プリンタ名 16
 - SVG 出力 9
 - Server Based Converter 20
 - XPS 出力 9
 - Server Based Converter 20
- ### あ
- イメージ出力 8
 - 21
 - Server Based Converter 20
 - 実行例 12, 13, 14
 - オプションファイル
 - GhostScript 16, 21
 - Server Based Converter 17, 20
- ### か
- 概要
 - GSSBC 1
 - 環境変数 4
 - GSSBC_HOME 5
 - GS_PROG_PATH 5
 - JAVA_HOME 4
 - PATH 11
 - コマンドラインオプション
 - GSSBC 16

さ

実行
 GSSBC 11
実行可能パーミッション 11
実行例
 GhostScript 12, 13, 14
 GSSBC 12
 MS Office 12, 13
 PDF出力 12, 13
 Server Based Converter 12, 13, 14
 イメージ出力 12, 13, 14
出力形式 16
出力デバイス名
 GhostScript 16
準備
 GSSBC 3
ソースパスワード
 パスワード 17, 19

た

ターゲットパスワード
 パスワード 19

は

パスワード
 ソースパスワード 17, 19
 ターゲットパスワード 19
必要なソフト
 GSSBC 3
ファイル形式 2
プリンタ名
 Server Based Converter 16
変換先ファイル形式 2
変換の流れ
 GSSBC 7
変換元ファイル形式 2

GSSBC マニュアル

2013/02/26 1.0 1.0 版 GSSBC 1.0 用の初版。

2013/06/27 1.1 1.1 版 構成を大幅に変更。スペースを含むファイル名について、記述を追加。

アンテナハウス株式会社

Copyright (C) 2013 Antenna House, Inc. All rights reserved.

